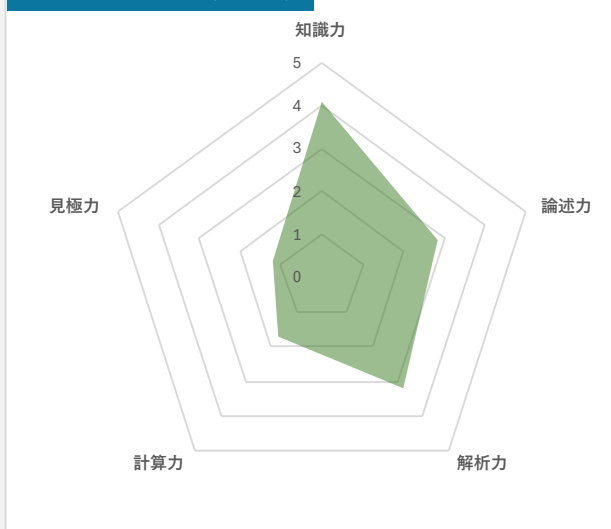


総合分析

試験区分	II期
------	-----

制限時間	70分(理科2科140分)	大問数	全4問
------	---------------	-----	-----

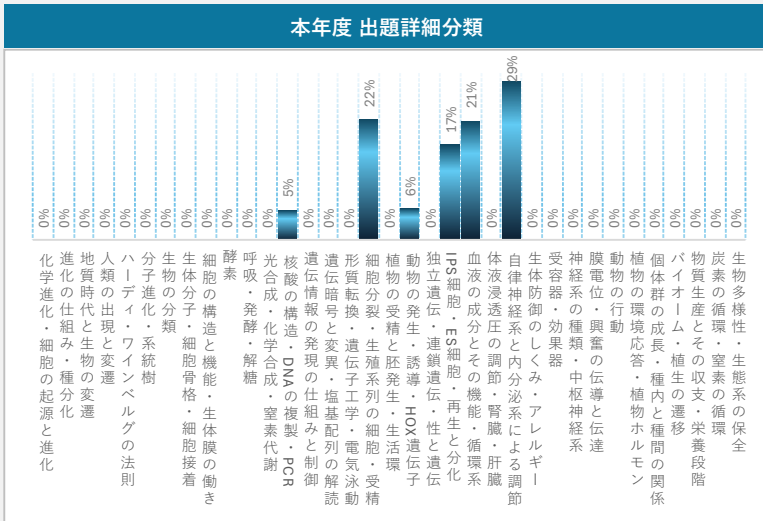
合格に要する能力 (5段階)



出題分野	
系統と進化	0%
生命現象と物質	0%
遺伝子	5%
生殖と発生	45%
生物の環境応答	50%
生態	0%

本年度 解答形式	
論述	79%
答...	

本年度出題テーマ一覧	
第1問	細胞周期とDNA複製
第2問	酸素解離曲線
第3問	動物の配偶子形成, ES細胞とiPS細胞
第4問	恒温動物の体温調節



合格に要する能力 (5段階)		
知識力	3.9	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	2.6	設問の指定に沿って的確に記述する力
解析力	3.0	図表データなどから分析・解析する力
計算力	1.5	式を組み立て、正しく計算する力
見極力	1.0	難度を判断し、適切に時間配分する力

特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞あり	範囲外問題なし	長文論述なし
---------	---------	--------	---------	---------	--------

特記事項	特になし
------	------

総合評価

難度	2.4	最難を5とする問題自体の難度	やや易しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	84%
分量	44分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	やや少ない	極めて高い正答率を要する	

入試の特徴と対策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大問ごとにテーマが一貫している。分野を横断する融合的な大問がほとんどない。 ▶ 定石的・定型的な問題が多い。
----------	---

入試から見る大学が求める学生像	昭和医科大学は単科医大なので出題分野が動物分野に偏っているのが特徴である。医学生物学を学習していなければ解けない問題は出題されないものの、やはり動物生理分野は強化しておいてもらいたいという大学のメッセージと考えられる。
-----------------	---

総合分析 入力および

必須入力欄は白枠

入力不能欄は灰色

実施年度 2025 実施日 3月1日 大学名 昭和大学

校種 私立

試験区分 II期 制限時間

合格に要する能力		重み	設問別分析からの解答形式の集計	
知識力	3.89	1.0	本年度 解答形式	選択肢
論述力	2.64	3.0		0%
解析力	3.00	5.0		
計算力	1.50	2.0		
見極力	1.00	2.0		

難度 2.45 やや易しい 最難を5とする問題自体の難度 分量

一次合格に必要な正答率（予想） 84% 極めて高い正答率を要する

テーマ性	4.00	知識	0.21	特記事項
典型	3.29	一問一答式	2.07	

入試の特徴と対策

- ▶ 大問ごとにテーマが一貫している。分野を横断する融合的な大問がほとんど
- ▶ 定石的・定型的な問題が多い。

特殊問題 数理生物学なし 生物物理なし ノーベル賞あり 範囲外問題なし 長文論述なし

入試から見る
大学が求める学生像

昭和医科大学は単科医大なので出題分野が動物分野に偏っている。医学生物を学習していなければ解けない問題は出題される。やはり動物生理分野は強化しておいてもらいたいという大学側のメッセージと考えられる。

このファイルの所在

/Users/kitaryousuke/Desktop/とりあえずD組/0309/

© 2024 E-Dual Inc.

処理

分析者氏名 森田亮一朗

学部 医学部 科目 生物

生物単科
理科2科

70分 理科2科 140分

穴埋め記述	答えのみ記述	論述	不明
0%	21%	79%	0%

完答に要する時間	44分	やや少ない
制限時間に対する割合	63%	
かけてよい時間	70分	

どない。

参考 特記事項

第1問 特になし

第2問 特になし

第3問

第4問 特になし

るのが特徴
れないもの
学のメッ

シート

リボン

の保護解除パスワード

poqw

→ 校閲 → シートの保護解除

設問別分析

第 1 問		設問の解法に要する能力				出題詳細分類	
細胞周期とDNA複製		知識力	3.5	論述力	0	細胞分裂・生殖系列の細胞・受精	75%
生殖と発生		解析力	3	計算力	3.5	核酸の構造・DNAの複製・PCR	25%
解答形式	答えのみ記述	難度	2.3	やや易しい			
必要な正答率	90%	分量	完答に要する時間		10分		
			かけてよい時間		15分		
設問の特徴							
分野横断型	3	テーマ性	考察	2	知識		
新傾向	5	典型	長文読解	3	一問一答式		
特殊問題	数理生物学なし 生物物理なし ノーベル賞なし 範囲外問題なし 長文論述なし						
特記事項	特になし						

第 2 問		設問の解法に要する能力				出題詳細分類	
酸素解離曲線		知識力	4	論述力	3	血液の成分とその機能・循環系	100%
生物の環境応答		解析力	3	計算力	3.5		
解答形式	論述	難度	3.2	標準			
必要な正答率	90%	分量	完答に要する時間		10分		
			かけてよい時間		15分		
設問の特徴							
分野横断型	5	テーマ性	考察	3	知識		
新傾向	5	典型	長文読解	4	一問一答式		
特殊問題	数理生物学なし 生物物理なし ノーベル賞なし 範囲外問題なし 長文論述なし						
特記事項	特になし						

第 3 問		設問の解法に要する能力				出題詳細分類	
動物の配偶子形成, ES細胞と iPS細胞		知識力	4	論述力	3.5	細胞分裂・生殖系列の細胞・受精	20%
生殖と発生		解析力	3	計算力	0	動物の発生・誘導・Hox遺伝子	20%
解答形式	論述	難度	2.7	標準		iPS細胞・ES細胞・再生と分化	60%
必要な正答率	80%	分量	完答に要する時間		12分		
			かけてよい時間		20分		
設問の特徴							
分野横断型	4	テーマ性	考察	2	知識		
新傾向	2	典型	長文読解	3	一問一答式		
特殊問題	数理生物学なし 生物物理なし ノーベル賞あり 範囲外問題なし 長文論述なし						
特記事項	アフリカツメガエルの核移植実験により「核の全能性」を示したガードンは、iPS細胞を作製した山中伸弥とともに2012年にノーベル医学・生理学賞を受賞。						